

※報告会での質疑応答を原文のまま掲載しています。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
1-1	質問	来年度から複式学級になるとのことですが、これは決定ということでしょうか。	現状の児童数からいきますと、複式学級となります。
1-2	ご質問	何で隣に700人規模の学校があるのに、この学校が複式学級になるのか理解できません。その点をどのようにお考えでしょうか。	仰るとおり近隣のみどりの学園義務教育学校、みどりの南小学校ともに一定の規模のある学校になっています。みどりの学園義務教育学校が開校する際の学区の設定にあたって、萱丸の土地区画整理事業を一体と捉える形で、谷田部南小学校区であったみどりの東が新設校の学区に含まれた経緯があるということは承知しているところです。実際、学校の規模間の違いは問題意識として持っておりますが、学区として定着している状況もあり、学区を変更することが難しい現状があることを御理解いただきたいところでございます。そのため、谷田部南小学校につきましては、教育の中身をこれからどのようにしてくかということが一番重要なところと認識しておりますので、その部分の説明させていただくため、本日説明会を開催させていただきました。
1-3	ご質問	区分けについては仕方がないところもあるかなと思いますが、私の子どもが複式学級の対象になる学年になりますが、当然学力の差が出たりすると思うんですね。先程、小規模校のメリットについては沢山お話いただきましたが、最近の小規模のデメリットの方が非常に多くなっていると感じています。まず、児童数が足りないために、校外学習のバスが出せない。他の学校はバスが出せるのに、ここは出せずに電車で校外学習に向かったそうです。他の学校の子たちと同じことをさせてあげられないという親の気持ちを市はどのように考えているのでしょうか。例えば、補助金を出してバスを出してくれるとか、今年度の6年生でいえば、卒業アルバム、こちらも紙で作るととても高額になるということで本では作れないという現状があります。保護者の負担が多くなるだけでメリットをあまり感じられません。当然、子どもたちはいきいきとしていますし、親としても何となく全員の子どもたちの顔もわかるし、安心できるということもありますが、学校として存続していくなかで親の負担が非常に大きくなっていく、今後も児童数が少なくなればそういったこともあり得ると思いますが、補助を出していただくとか、そういったことはしていただけないのでしょうか。	補助についてですが、我々としても昨年度来、校外学習等につきましては保護者のご負担も大きいということで、皆様がバスではなく公共交通機関を利用されている話は伺っております。これまでも市教委にも保護者の皆様からのお声としても承っております、まず検討しなければならないことと承知しております。ますます子どもの数が減っていくことで、そういった懸念も今お話しいただいた通りですので、そのための方策の1つとしては、先程の小規模特認校制度により子どもたちを1人でも多くということも考えているところです。もう1点の卒業アルバムについても同様かと思います。やはりご負担が大きいということになりますので、今後とも保護者の皆様、学校と意見交換をさせていただきながら検討を進めさせていただければと思います。
1-4	ご質問	複式学級になるなかで、複式学級が嫌なので隣のみどりの南小学校に転校させてくださいということは認めていただけるのでしょうか。	現状、単学級といわれるような小規模の学校が谷田部南小学校のほかにも複数校あるような状況です。学区外就学については許可基準を設けており、そちらの基準からすると小規模校であるという理由で学区外を許可することは難しい状況です。学区外の許可については個別個別の審査になりますので、学区外を希望される場合は学務課にご相談いただければと思います。
1-5	ご質問	学区外については、現状としては審査しないとわからないということでしょうか。	個別個別の判断という形になりますのでご了承いただければと思います。
2-1	ご質問	小規模特認校制度によって規模が回復してきたという事例はありますか。たくさん学区外から流入してきて、学校として勢力が盛り返してきたというような研究事例とか、実例が県内ないし県外にあるかそれをお伺いできますでしょうか。	小規模特認校を導入している自治体の人数的な部分での成果のところは調査していますが、ソフト的な成果の調査まではできておりません。
2-2	ご質問	今回の試みは全国でも初めての取組みで、イエナプランも含めて全国的に見て先進的な取り組みという認識でよろしいですか。何が言いたいかというと、確かにこういうふうになります、こういうふうな形で児童が増えていくという事例もあります、それがきちんと我々にとっては将来を描けない状況にあります。先程の方の質問のように学区外に行きたいという問合せがあるわけですね。それはルールなので個別に問合せいただけませんかと、小規模というのは理由になりませんと言うわけですね。一方で外からは受け入れますといったときにあまりフェアではないと思います。学区というものは、普通教育の水準をある程度保ったというところで学区が設定されていて、それで規模がきちんとあることが教育基本法とかで書かれているわけですね。その規模によって運営されていることが基本になっている。ところが、今回小規模になってイレギュラーで外れている。それで外から募集しますということであれば、その選択権を我々にも欲しいなと、つまり全学校どこにでも行けるというところを少なくともこの土地に縛られている人間に関しては許可していただくというのがフェアなのではないかと思っているのですが、ルールの的には難しいのでしょうか。小規模特認校を推進・決定した学区の児童はどこにでも学区を超えて行ける、学区に縛られない、学区を改変して欲しいというのが一番の願いです。みどりの学園義務教育学校が開校したときに、学区の原則としてその小学校の学区で学区審議会が作られて、学区審議会を経た決定に対して教育委員会がそれを承認して学区を決定するというプロセスがあると。ところがその時に旧谷田部南小学校の学区であった根崎、古館が、今のみどりの東の一部がなぜか知らないけれど義務教育学校の学区に入った。これは当時の集落の意見だったということで話を聞いているが、この集落の意見というのが、学区審議会に諮られていないという経緯がある。学区審議会で諮られておらず、教育長の決裁なのか当時の学務課の方かわからないが、そういう集落からの意見があったのでということで当時の学務課長からお伺いしたのは、教育長の判断ですということで住民の声を聞いてということがあったんですが、結果的にこういうような隣はマンモスで建て替えをしなければならない、こちらは小規模だけど頑張ってくれという状況になっているのが納得がいかない。今通っている人たちの学区を変えられないということはわからなくはない。ただ、同じような形でそこに住んでいる人たちがあつたら自由に動いて良いですよという形で学区の開放の許可をいただけないでしょうか。	谷田部南小学校へ小規模特認校を導入することになった場合、本日皆様からいただきましたご意見なども含めて柔軟な対応ができるかも含めて検討していきたいと考えております。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
2-3	ご質問	もう一度お聞きしたいのは、学区の変更をするというのは、教育長にお伺いしたいのですが、それは難しいのでしょうか。	以前のみどりの学園義務教育学校の学区については、前教育長の時代になりますが、教育長の決裁ではない、教育委員会の検討事項になります。教育委員会は、教育長を中心とした会議体でありますので、そこで決定した、まずそれをお伝えさせていただきます。今回、皆様からたくさんご要望があるのであれば、ご意見として検討しなければならないと考えていますが、今ここで大丈夫ですとかダメですと答えられない状況であることはご理解いただければと思います。ただ、本日は私たちはこのような形で谷田部南小学校をさらに発展させるように頑張ります、頑張りたいということをご説明した上で皆様からご意見を伺う機会ですので、皆様から色々な意見をお聞きして今後の検討材料にするということで、この時間をご理解いただければと思います。 また、複式学級へのご不安が皆様から出てくるだろうなと思っておりまして、複式学級を必ずしも複式でやるということを私たちは考えていなくて、教科によって別々にやったり、音楽や体育などは一緒にやった方が良い時間が多いんだと思うんですね。形として決まりとして複式学級という2学年が1クラスになるということではありますが、実際の運営は必ず複式でやるとは考えておりません。例えば、算数の時間は別にもう1人の先生が2年生、担任の先生が3年生、それをまた逆にすると、そういうことをやって別々のクラス、別々の進行で授業をやるということも可能ですので、そういうことを教科・内容によって変えたりしながら、着実にやっていきたいと思っています。全部が複式ではないということをご理解いただければと思います。
3	ご意見	本日は色々ご説明ありがとうございました。また、谷田部南小学校を盛り立てていただくために色々な政策を検討いただいているというご説明ありがとうございました。 小学校を盛り立てていただく政策をやっていただくのはありがたいのですが、そもそも今日ここにいらっしゃる皆様、社会性、対人スキル、こういったものが小規模校では担えないということで、そこが一番心配で皆さん来られていると思うんですね。そちらにいらっしゃる皆さんは、学校の魅力を上げて、小規模特認校制度というものを設けて、外から人を呼び込む、そういうことを考えていると思うんですね、聞いていると。複式学級に特別な事情がなく入って来ようとする人達がいるですか。そうじゃないと思うんですよ。そもそも、そちらにいらっしゃる方々で学区を決められたわけですよね。ちょっと私聞いてて、少しおかしいんじゃないかと。そもそも学区を決める際に都市開発があって、仕方なくそこで決められましたと。違うでしょ。あなた方が関わって学区を決めたんじゃないですか。ものすごく他人事じゃないですか。違いますか。私はそのように感じたんですね。学区というのは、地域のなかで色々な意見があって決めていく、そこには色々不利益を被る方もいらっしゃる、それはわかります。ただ、今、物凄く谷田部南小学校は不利益を被っている。なので、今からでも遅くないです。学区を変えてください。それが一番皆さんが考えていることだと思いますよ。人を呼び込む、なかなか難しいことではないですか。学区を変えましょうよ。学区を変えるタイミングは沢山あったと思いますよ。みどりのができたとき、ここの学区が減った、みどりの南ができたときに、またそのタイミングがあったんじゃないですか。なんでそれをやらなかったんですか。凄く憤りを感じますよ。たぶん皆さんそういう不満をお持ちだと思いますよ。さらに私不満に思うのが、先程お父さん方が仰っていただいた谷田部南小の子たちが不利益を被っている、親の負担が増加している、そういうことを仰っていましたよね。何で我々だけ我慢しなければならないんですか。小規模特認校で外から入ってくるのは自由なのに出ていくのは認められません、何ですかそれ。入ってくるのは自由だけど、出ていくのはダメです、何ですか。不利益があるのに、対人スキルが落ちるのに、コミュニケーション能力は落ちるのに、我々はオランダの教育を取り入れてほしい、ロボットを取り入れて欲しいわけではないんですよ。他の小学校と同じようなコミュニケーションを取らせたい、それだけなんです。特色ある教育求めているんですよ。彼らが大人になっていくうえで非常に大事な小学校生活、ある程度の人数が必要だということをあなたたちも認識あるでしょう。学区を変えてください。お願いいたします。	

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
4	ご質問	いくつか質問させていただきたいのですが、複式学級にする前につくば市として児童が増える対策についての今までできなかったというか、私達からすると全く対策をされてこなかったように感じるんですが、今後、一番下に子供がいるので、その子たちが入るときにもし人数が増えていたりとか、学校を統合するとか、そういう考えがあるのかどうかお聞きしたいのと、あとは今回のことは子どもたちのことを思いつくば市の方々が考えていただいたことだと思うんですが、今回の複式学級にしますよ、子どもたちのためですよ、というのが伝わりにくいというか、大人の事情、この谷田部南小学校を残すための対策というふうに感じてしまう部分が正直あります。今回、この複式学級になるよといことを聞いたときに、息子にどう思うって話を聞いたら、そんなの集中できないから嫌だ、って言っていたんですね。正直、私も旦那ももちろん今までも複式学級で授業を受けた経験がないので、良さというのかわからなくて、どうしてもデメリットしか思い浮かばなかったんですね。それを子どもに伝えたところで子どももデメリットしか思い浮かばないと思うんです。そうなったときに子どもたちのためって仰っているけれども、複式学級の良さを伝えないまま、来年から急にあなたたちの学年は複式学級になって、こういうふうに授業をしますよって言われても、正直子どもたちも戸惑うと思うんですね。もちろん、今回私も戸惑ったところがあって、その辺をつくば市の方からちゃんと子供たちにわかりやすく納得できるような説明をする場を設けてもらえないかなというのが正直思うところで、そこで子どもたちがどういうふうと思うかが一番大事なんじゃないかなと思うんですね。正直、親たちは外から見ることしかできないので、子どもたちがそれで良ければ私は正直やってみて、子どもがすぐ良かったって言うのであれば凄く良い選択だったのかなって後追いですけど思えると思うんです。だけど、今の説明会でも大人だけの話っていうところになっているのが、子どもが置いてけぼりになっているんじゃないのかなって思うので、その辺複式学級にしますって決めたのであれば、ちゃんと子どもたちのフォローをして欲しいということと、あとは複式学級になるということだったので、その経験のある先生が赴任してきてくれるのかということも、全く経験がなくて手探りで始めますでは私達も不安なところがあるんですけれども、ちゃんとそういう経験があって、例えば経験がなくてもそういう研修に行って、というふうにちゃんとやりますよという土台があると少しは安心して複式学級でも良いかなと思えるところはあるんじゃないかなと思うので、その辺をどういうふうにお考えというか、デメリットに対しての対策を取られているのかということところが気になることだったので、もし対策があるのであれば教えていただきたいなと思います。	まず1点目、今のお話をお伺いしていますと、子どもたちの気持ちを大切にということで、我々も全く一緒です。ただ政策としましては、やはり大人が考えるということで進めてきましたので、改めて子どもたちの気持ちというのは大事にしたいなと感じたところです。教員研修ですとか、複式学級のあり方について教育長からも先程ありましたが、原則としての複式学級のあり方というのはご承知のとおりとなります。ただ、本市においてはお子さんや保護者の皆様のご不安を少しでも軽減できるように、また子どもたちの学力を保證できるように1人の先生が2つの学級を見るという原則を外しまして、今まで通り2人の先生を配置できるように別途考えています。ですから、先程申し上げていた通り、教科によって学年を分けて実施した方が良い場合はそれぞれの先生が指導することになります。先程お話いただいたように他の学年のお子さんたちと一緒に落ち着かないとか、これまで経験がないと思いますのでご不安なものをお話を聞いて重々承知しております。その点については説明をですね、学校さんと十分協力をしながら子どもたちにも分かるようにお話させていただければなと改めて感じたところです。それから、教員の研修についてですが、県の中でも複式学級をやられている学校の知見ですとか、我々も十分吸収しながらしっかりと研修を行うとか、人事異動の際にご経験のある先生に来ていただくとか、その辺のところは十分検討しながらスムーズなスタートが切れるような形では考えております。
5-1	ご質問	今のご説明だと、先生を配置するのであれば学年を分ける必要があるのか、学年を一緒にしなくてもいいのではないかなというふうに感じてしまったんですが。	本来、1つの学級に対しては1人の教員が配置されるわけなんですけど、国の制度上、ある程度的人数以下になってしまうと2つの学年をまとめて1人で教えないという法的なルールは決まっているところなんです。そこは崩せないところではあります。県から配置される教員はこの2つの学年、2・3年生で1人なのですが、つくば市としては、それではやはりご不安が皆様にあると思いますので、もう1人別途市で独自に教員をそこに配置して2人体制を作りたいという考え方で進めています。
5-2	ご質問	その先生というのは、授業を行ったりできる先生なんですよ。複式学級で授業をやるときというのは、例えば教室は別々のままなんですか。	もちろん、仰る通りです。授業ができる教員ということです。原則としましては、1つの教室で2つの学年が活動することが多いと思いますが、そこは学校の実情とか、教室の配置状況にもよります。今現在我々としても母体の教室はありますが、色々なところで学ぶ環境を多様な学びの場として整えているところなんです。ですので、いつも自分の教室だけではなくて、自分の学びたい場所にどんどん行きながら学べるような環境もありますので、この教室で必ずやるというイメージではないかなと思っています。
5-3	ご質問	授業の内容も変わってくると思うんですけども、それが1つの教室で半々とかで行われたりするんですか。	そこは今正確に申し上げることは難しいのですが、子どもたちに異学年で、2つの学年で影響があまり出ないようにデメリットにならないように場所を分けて教える時もありますし、一緒に空間でやるような場面もイメージできますし、今後、子どもたちと先生方と話し合いながら環境を整えていければと考えています。
5-4	ご質問	今の段階では、やり方としては決定していないということなんですか。	学ぶ場の空間づくりとしては、正式決定にはなっておりません。教科の特性に応じて、国算理社は学年を分けて別々の先生で従来通り実施。例えば、3年生の授業はこっちの先生で3年生メインで見ます、2年生は違う先生が見ますというように、1人の先生が2つの学年を同時に見るということは避けたいなと考えています。一方で、技能教科系ですね、体育、音楽、家庭科、図工等、そちらは多くの人数で異学年混ざっても教育効果はかなり上がると思っていますので、そちらはそういった方向で進めたい、そういうイメージでおります。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
6	ご意見	ここの学校ができたときに谷田部小学校からこちらに異動してきたんですけど、そのとき、自分の記憶があるときからここの学校は人数が減っていくというのを凄く小さい時から聞かされていて、実際、自分でここに住んでいてどんどん減っていくことが身近に感じてきていて、先程話もあったと思うんですけど、みどりの学園ができてお友達が減って、またみどりの南ができてお友達が減ってっていうのは、つくば市の方でもたぶん推測できたんじゃないかなと思っています。私も子どもが3人いまして、一番下の子を今通わせていただいているんですけども、凄く小規模のなかで凄くメリットも沢山あって、色々な経験をさせてもらったりとか、なかなか沢山の人数の小学校では経験できないこともさせていただいたので、とてもこの学校が大好きで残していただいていることはとても感謝しています。ただ、先程からあるように人数が少なくなっているということはわかっていらっしやっただと思うので、学区だったりとか、もっと前からきつこういうふうになるんであろうかなという段階から考えていれば、こういう状態にならなかったんじゃないかなというのも正直な気持ちであって、体育とかは結構前から複式学級でやっていたと思うんですね。それで子どもたちもサッカーができないとか、こういうことがやりたいけど人数が足りないからできないというのもしいつつ、でもその場で楽しめるような競技にしてくれたりとか、雰囲気にくれたりとか、沢山の先生方が色々工夫してやってくださっていたので2人の子どもたちは卒業したんですけど、南小で良かったって言って卒業してくれています。なので、これから先もっと減っていきってしまうと思うので、先程言ったみたいに小規模の推奨をして、もし人数が増えたとしたら良いと思うんですけど、やはりそうならないかもしれないという不安というのが沢山あるのではないかなと思ったので、学区を編制するとか、もう少し現実というか、こうなったらいいなというのがやっぱり小学校は6年間しかないんで、その6年間の間で少なかったね、おしまいってなってしまうのは違うんじゃないかなと皆様方のご意見を聞いて凄く思ったので、子どもたちの気持ちにももちろん寄り添っていただいて考えてくださっていると思うんですけども、この辺の地域であったり、これからのことだったりをもう少し視野に入れて1個1個真剣に向かっていただけたら嬉しいなと思いましてご意見させていただきました。	
7	ご質問	私も校区拡大を希望しています。複式学級の取り組みの前にまず校区を拡大していただきたいです。それは可能でしょうか。複式学級は既に決定ということだったんですけど、やっぱり複式学級のメリットはお聞きしていてもやはり感じられていないです。なので、まず校区を拡大して人数が増えれば国の制度の人数よりは増えると思うので、まずは人数が増えるような取組みをした上で複式学級ということであればしょうがないかなと思っているんですが、私たちに複式学級をやりますと説得する前に校区拡大できると思います。その方たちに谷田部南小が校区ですということの方の説得を頑張っていただきたいのですが、複式学級は決定ではなく検討ということではいただけないでしょうか。	先程お話ししたところではあるんですけども、今、現状として、みどりの南小学校であるとか、みどりの学園、こちらの学区の方が基本的には定着しているような、そういった状況がございます。そういった中で、通学区域を変えるというところの影響ですね、保護者の方であったり、その学区の変更に関わる児童であったり、その影響を考えると、通学区域の見直しというのはなかなか難しい、そういった状況がございます。一方で、みどりの南に通うエリアのお子さんであったり、そういったところには谷田部南小学校の方に就学を希望する場合には、こちらの方に就学を認めるという指定学校の変更という制度を私たちの方で行っています。
8	ご意見	たぶん、みどりのとかみどりの南とかの人に、じゃあ南小に行きますかと聞いても誰も行かないと思うんですよ。あっちの方が新しいし、人数もいるし、それで学区とかも、僕通っていた頃もたぶん違うと思うんですけど、そこら辺の戦略というか考えというか、後々こうなるんだろうなというのは必然としてこうなったんじゃないかなと思うんですけど、皆さん先程から少なくなってしまったのでって仰っているんですけど、そうさせたんじゃないのかなって僕は思っています。	

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
9	ご質問	4、5年前に谷田部南小が将来小規模になって廃校もしくは複式化するのではないかとということで、個人的に市の方に要望書を提出しました。教育長さんにもお会いしましたし、市長さんにもお会いしてお話させていただきました。結局ですね、それから思いのほか早く複式学級になるような人数まで減ってしまいました、4、5年程あったはずなんですけど、市の方で全く対策はされていないんじゃないかと思っています。先程、学務課の方仰られたんですけど、みどりの東とかみどりの南小あたり、谷田部南小の方に来ても良いですよという形で告知されていますよね。ですけど、現実的にはいらつしやいませんよね。そういうなかで小規模特認校制度というものを導入しても、やはり通学の問題ももちろん遠方ですし、送迎もありますし、なかなか現実的ではないと思うんですよ。今、小規模は良いことだと私も思います。メリットも沢山ありますし。ですけど、谷田部南小は小規模過ぎるというのが問題で、例えば1年生でも男の子しかいないような異常な状況のなかで子どもたちは毎日生活をしているんですよ。やはりそういう中で、社会性とか人間性とかを身につける大事な時期において、少し環境が異常なんじゃないかと思います。そういうなかで小規模特認校制度というものを導入されて、どのくらい増えるの見込みをされているんでしょうか。	現状、数としてどれくらい増えるという数字的な見込みというのは正直できていない状況であります。他市町村の事例でいうと、概ね児童数の増加が見込まれるという、制度としてはそういうものと捉えています。
10-1	ご質問	法律的な話からというか、普通教育、そもそも学校、小学校というのが、どこにいても同じように教育を受けられるという、教育を受けさせる我々親に課せられた義務と子どもたちの権利の問題だと思っています。例えば、今ここの学校が筑波山の頂上であって衰退していきますということであれば、ここにいらっしゃる方はしょうがないとか、だんだん山の方から街の方に行くからとかあるんですが、隣の学区が増えている、増築をするみたいな噂もあるとなるとこれはちょっとという話になっていると思うんですよ。実際に学区というものは大体何キロでしょうか。いわゆる学校を中心としてどれくらいの距離感というか、それは分かりますよね。	小学校については、2～4キロを標準としています。
10-2	ご質問	例えば根崎の集落が2キロから4キロといった場合は、通常だったらどっちなんですか。つまりみどりの南という学校が適切なのか、それとも谷田部南小が適切なのかというのは、それはどちらが適切ですか。	根崎地区については、小学校については、あくまでも距離的な部分でいえば谷田部南小の方が距離的には近いということになります。
10-3	ご質問	そうすると学区の変更はちょっとって難色を示しているといいますが、何が障害何でしょうか。例えば、東丸山なんて大変だと思うんですよ。谷田部南小学校がなくなったら、みどりの南ってさっさと言いますけど、東丸山からみどりの南ってちょっと冒険なんですよ。なので、谷田部南小があって何とか来れているみたいなのはあると思うんですが。これがなくなった、小規模になったとして、少なくとも東丸山の人は選択できないわけですよ。ここしかないの。色々な諸事情があるので、そもそも学校と学区は行政が距離をもって割るところが基本にあるんじゃないかと思っているんですよ。その認識で間違いはないですか。さらに言うと、それが基本のベースであるにも関わらず、今回学区が、そういうことであれば見直してあげますということが、学務課の話から先程出てるのはちょっと難しいですよとか、ちょっとできないです、という学区が定着しているみたいなことを言っているけれども、根崎の人たちはむしろ近いところから遠くに行かなきゃいけないという現状になっているじゃないですか。そういうのも踏まえると、適切な学区の割りじゃないんじゃないかということがあると思うんですよ。根崎の方たちに全員に聞いたわけではない、ましてや説明会もされていないでしょうから、何とも言えないですが、根崎に引っ越してきましたと、何でデフォルト値が谷田部南じゃないんだらうと思っている方もいらつしやるんじゃないですかね。本来、そうあるべきですよ。それを妨げるみたいなことを言っているけど、何が妨げなんですか。	みどりの学園の学区につきましては、学区審議会の中で審議、学区審議会というのは、委員さんだけでなく地域の意見であったり、関わる保護者の意見だったり、それをあの場で検討して1つの答申として出したという経緯があります。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
10-4	ご質問	谷田部南小学校は、そもそも関係ない話でしょ。そのみどりの学園の学区割とは。みどりの学園は谷田部小学校の数が増えたんでしょ。谷田部小学校の学区でみどりの学園の編成を変えた、でみどりの学区を割った。それは分かる。でも南小も、根崎もそのときは全く関係がなかったですね。仮に間違っって入れたとしましょ。でも、変えるといったときに選択ではないですよ。法的な部分を考えれば。そういうことを考えたときに、あ、すいません、間違っていましたとは言いませんが、どこかのタイミングで戻すということができない理由がわかんないんですよ。だって、向こうを上がっていったら根崎があるんだもん。それが肌感でわからないし、それが何が妨げているのか、仮に住民の人たちに説得をしなければいけないからって話だったら、そっちもそれくらいの規模感というか、それは公平を担保するときには、それは権利の衝突は起こるんでしょ。みどりのの新しい学校に行きたいんだけど、買った土地がそこだったらというのを誰かが判断してくれないといけないじゃないですか。それが行政の仕事なんじゃないかということがあるんですね。行政に色があってはいけないと思うんです。だからこそ距離感とか、距離ですよ、一番わかりやすいのは。それで増築するっていう話まで出ているのであれば、その手前で距離を見直すとか、そういうものが行政の運営側としてあって然るべきだと思うんですよ。こちらからこういうことを挙げなくても、実はそういうこともあるので、新しくできた場所でも人数を収容できないので、学区の見直しを検討していますというようなことをありつつも、複式学級の話だったら納得はしていないけど、やることはやってもらっているんだなと思いますね。ただ一方的に縮小の話だけされて、かたや隣は膨れ上がるということを強調されても、ちょっと分からないので、権利の衝突以外で何が妨げになっているかということをお教えください。我々には説明をする。当然、向こうの学区の人にも本来はこうあるべきなので、こういうふうに行政が切りますということを説明しても良いですよ。私たちに複式学級ということを使うぐらゐな感覚でテンションで同じようなことを言ってもいいんじゃないですかね。それは、行政がどう決定するかですよ。行政がどう決定するかと言ったら、今の現状からやりやすい方じゃなくて、そもそもさっきも言いましたけど、南小の学区が谷田部小の学区審議会に入ったことがそもそもの始まりなので、それだったらどこかで是正しなければならないじゃないですか。是正するタイミングが今だとすれば、こういうふうには小規模になるのであれば、逆にそもそもこういうような経緯があったんですとみどりの東とかの人たちに説明をして、こちらの学区に変更して構わないかということをお尋ねするということをやっているはずなんだけど、それは何故やらないのっていう。何が妨げに、行政の事情はよくわからないけど権利の衝突以外に何が起きているんですか。それは市長の判断ですか。明確な回答がないのであれば、それは同じように学区を改変するんではないかと。みどりの東とかの方に、そういった経緯で学区を改変しますという説明会を開かなかったんですか。権利の衝突は役所は当然しないと、できないので、我々にそういうふうなことを言ったのと同じくらい、学区というものには選択制にはしていますが、これはすべてデフォルトを変えますというふうにしたときに、これは定着した学区ということもあるでしょう、そんなこと言ったら我々も定着した学区ですよ。何で我々だけ苦しまなければならない、場所です。まして、家を建てたらしばらく動けないですよ。そのあたりは、どうしてこっち側だけに言うのか。お答えいただけないですか。	みどりの南の地区に根崎が入ったというのは、要望書の関係があってですね、それで要望書があつて、みんなで判断したところ、その要望書を受け入れまいしようということになったんですね。経緯としては。学区は、距離ももちろん勘案しますが、それよりも行政区というところの区切りを考える、ですから、近くであつても遠くの学校に行っている事例も沢山あるんですよ。ですから、そこところは距離だけでは判断できないということはお含みいただければと思います。先程申し上げました通り、本日は皆様のご意見をとにかく伺うということと参りましたので、そういうご意見も十分にこれから検討しなければならぬと思っています。 先程から、ご理解のところで相違があるのかなと思うのは、複式学級というのは私たちがやりますと決めたのではなくて、国、県のルールでこの人数になったときにはやらなければならないというのがあります。ですから、形としてこの人数になったら複式学級という形でやることになりますという前提があります。その上で私たちは、複式学級という学級ではあるけれども、別々にやったりですね、もちろん教室も別にしたりしますということを皆さんに説明させていただきたいということなんですよ。通常、複式学級というのは、1つの教室にですね、前後に分かれていて、前で2年生にこういう勉強をしますよと言ったら、今度は後ろに3年生に今日はこんな勉強をしますよ、行ったり来たりしながらやらなければならないというのが一般的な複式学級なんですよ。ただ、つくばとしては、形として、国に報告する学級としては複式学級ですけれども、算数としては別の今までと同じように分かれていて、2年生の方は2年生の先生、3年生の方は3年生の先生が教えるような形ではありますので、その点は安心してくださいということをご理解いただきたいというのがあります。ですから、制度としての複式学級と私達が考えている運営はちょっと違うんだなというところは、まずご理解いただきたいと思います。それから先程要望書をいただきました。そのときに考えたのは、何れ小さくなるんだけれども、学区をいじるというのがなかなか難しかったというところが正直なところですよ。というのは、今まで決まった学区を広げましようというのができない、だから将来的には小規模特認校という形にすれば良いのではないかと考えていたんです。その小規模特認校の準備として先程言ったように教育活動を工夫することで、子どもたちが楽しく元気に、そして力をつけていく、そういう教育をすればつながるのではないかと、その魅力が外に発信されることによって谷田部南小って良いなって思ってくれる方たちが集まってくれるんじゃないかというシナリオを作って私は考えていたんですよ。社会性、対人的なスキルというのが心配だということはわかっていましたので、そのことについては、校外の方たち、専門家とかそういう方たちをお呼びして、そういう方たちとのコミュニケーションを持った教育活動をするということによって、そういうスキルも心配なく伸びるのではないかと考えていました。ですから、先程数値でお示したように子どもたちの発信力とか、協働性とか、そういう部分も数値的にちゃんと示されているのを見ていたというのが、私たちのある程度説得するものになっているということなんですよ。そういうシナリオのなかで考えてきて、これから小規模特認校にすることでこの学区が大きくなって、元々谷田部南小にずっといたという方もいらっしゃるんだらうと思っていたので、この学校を魅力ある学校にしていくことが我々の大きな責任なのではないかというふうを考えて進めてきたわけですよ。そういうことを前提としながら、皆さんのご意見を今日は沢山伺って、検討すべきことも沢山いただきましたので、学区の変更、それから、補助の部分ですね、小規模になることによって負担が増えているということについての、そして小規模特認校は実際に先程示したように、水戸の上大野小学校、牛久のおくの義務教育学校ですとか、そういうところで実際に行ったところは、児童数が増えている手応えもありますので、私たちとしては大丈夫なのではないかなと、それで何名増えますかというところは今から希望を取って聞かないとわかりませんので、そこは今はお答えできないというのが正直なところですよ。私達も将来を考えて色々工夫をしてきたというなかでのご理解をいただければと思います。そして、今いただいた宿題ですよ、そういうところこれから検討させていただくということでご理解いただければと思います。
10-5	ご質問	もう一度確認しますが、今回の試みは全国で初ですかということ、冒頭に言いましたが、そういう報告書があがっていたということをお考えたときに、こういうふうにしていきましようといったプランが博打だったのか、それともこういうふうになっていくという推計があったのか、全国的に成功があったのであれば、もらった資料にね、結果がない、アンケートの。ここで示されたアンケートの結果がないので、こんだけ効果がありましたっていうアンケートが配布資料には入っていないので。行政の手続きとして、小規模の不安を払拭する会であるでしょうから、それであれば小規模であってもこういうふうに生き生きしてやっていますとか、そのあたりの資料とかあわせて公開していただくとか。	生のデータということで、心配して配布資料に入れなかったということで、私の指示が甘かったようで申し訳ありませんでした。 データについては学校を通じてお示しできればと思いますので、ご理解をいただきたいと思っています。それから、小規模特認校の例については、このなかに入っているとおりで、そのなかで特に谷田部南小学校については、今までの事例以上に教育活動の工夫というのがあると私は思っておりますし、やってきたつもりですので、そういう魅力を発信することによって、今まで以上に集まるのはないかというふうに思っておりますが、ただ、やってみないとわからないというのが正直なところですよ。博打とは言いませんが、将来が約束できるのかと言われれば、それはできませんとしか言えません。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
11	ご意見	学区のことは直接は知らないのですが、もともとこちらの学区だった方が色んな思いを持っているのは理解できますというのと、2年前はみどりの学園の学区だったんですが、いろいろ仕事の都合とかもあって、みどりの南小に学区外申請をして通うことになったという経緯がありまして、なんとというか、今後、学区外から呼び込むということがあったんですが、正直、私はみどりの学園義務教育学校のようなマンモス校ではなくて、谷田部南小学校良いなと思って通わせることになっていて、今までのお話を聞いていると凄いマイノリティの考え方なのかなと思うんですが、同じような思いを持っている方がごくわずかかもしれないんですが、たぶんいると思うので、ここにどう上手くPRできるかとか、そこがどう伝わるかというところがたぶん鍵になってくると思うので、そこを力を入れていかないと思います。ただ、今まで皆さんが仰っていた学区の偏りがおかしいというのと、人数が小規模でも良いんですけど少なくなり過ぎちゃっているという部分は私もそう思いますので、可能な限り増えるようにしていただきたいなと思います。	
12-1	ご質問	複式学級なんですけど、国の関係で複式になる、ただ指導上は今まで通り学年毎にということなんですけど、職員数も変わらず今ままでどおり、例えば今1年生7人で1人の先生というふうになっているんですけど、これからも教員数は変わらずいていただけるということによろしいでしょうか。	教員の人数というのは、定数というのがクラス数によって決まっています。制度上は、1クラス減るので、基礎定数というのは減ってしまいますけれども、これは県の方との今からの相談になりますが、小規模校の加配教員、定数ではない加配教員というのが、つけていただけるのではないかと。実際、今パイロット校で、谷田部南は加配していただいているので、定数よりも1人多いんですね。それは維持されます。例えば新たな加配がなくてもクラス分の人数はいます。ただ、それが叶わなくても市として1人は余計につけることを考えていますので、必ずクラス分の人数が働けるような環境にはできていると思っています。
12-2	ご質問	国語、算数とか教科によって学年を分けて授業をするとかあったと思うんですが、細かく詳細を知れたらこちらも安心するかなと思いました。1週間の例を挙げていたと思うんですけど、国語、算数とかって学年によってカリキュラムが違うので、そこは絶対確実に学年で指導しますとはっきり仰っていただいたうえで、体育だったりすると人数が多い方ができることも増えるのでそういったところが複式学級になるのはこちらでも納得できるので受け入れやすいかなって感じました。なので、そういうふうにやっていきたいってあったんですけど、国語、算数はもう一度確認になると思うんですけど、学年で授業で進めていくというのは決定で間違いないでしょうか。	基本的にはそうします。ただ、私たちの考えとしては交流学习ということも考えていますので、例えば算数の何か演習をするときには一緒にやって、ただ先生が2人いて、2年生と3年生と一緒に勉強をしていて、そこでドリルをやるときに3年生が2年生を教えるとか、逆に2年生も3年生よりもできることがあることもあるので、そういう交流のなかで一緒にやるということがないとは言えませんが、基本的に新しいことを学ぶときですね、割り算のやり方を学びましょうというときには、別々にやるという方向でできていると思います。
13	ご質問	学区の変更というのはなかなか難しい話だと思いますので、今でき得る人数を増やすところでの小規模特認校の導入スケジュール案ということで、来年度4月以降に市内の各学校で説明等とあるんですけども、これについてどのようなPR、どのように市として進めていくのか教えていただけますか。戦略があるのか教えていただきたいと思います。	その点非常に大事だと思っています。広報紙はもちろんですけども、全市的な説明会なども行いたいと思っています。
14-1	ご質問	小規模特認校が導入された後、もし児童数が増えた場合というのは小規模特認校は廃止されるのでしょうか。	基本的には小規模特認校を導入した場合には、継続的に維持していくイメージです。ただ、他市町村でもそうなんですが、一定程度効果があって児童数が増えていく場合には、小規模特認校としての就学の方を認めないような、そういった必要がもしかしたらあるのかなとは考えています。
14-2	ご質問	学区のところはよくわからないんですが、根崎というところがこっちの谷田部南の方が近いというお話でしたけど、元々近いはずなのが新しい学校ができて遠いところに学区が変わったんですね。じゃあ、こっちに変えるというのも可能なんじゃないかなと単純に思ったんですけど、たぶん根崎の地区の住民に説明したときに反対の意見というのも上がってくるでしょうし、そういったことが簡単にいうと説得するのが面倒なのかなと、行政側の怠慢なんじゃないかなと、そういう手間が増える、自分が担当のときにはちょっと面倒なことではしくないということがちらちら見え隠れしているというのが正直なところなんですけど、今後、根崎地区の方に変更になるかもしれないとかそういうお話を具体的に持っていく考えはあるのでしょうか。	今ございましたご意見については、一旦持ち帰らせていただいて、今後どうしていくかも踏まえまして全体的に検討させていただきたいと考えております。
14-3	ご質問	公務員が仰る検討というのは、答えを出さないという意味なので、いつまでに検討をして、どういった結果をホームページなりに公表、いつまでにしますというお約束はしていただけるのでしょうか。	

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
15	ご意見	凄く単純に考えて、小規模校でこういう説明会をして学区の変更は難しいですというような曖昧な、持ち帰ってお話はしてくださるかもしれない、でも検討してやっぱり難しいねで終わるだけだったという印象があるんですけども、みどりのとか谷田部小でも同じように、こういう谷田部南小の現状があって学区の変更というのを考えているんだけど、皆さんはどうですかという、もしかしたら変更してもいいな、うちも本当は小規模の方が良いなという人もいるかもしれない。私は小規模校への不満は無いんですけども、もったいないなと思って。坂下がつて上がったら家いっぱいあるじゃないですか。あそこら辺のちょっと手前だけでも、駅の方に行ったら遠いと思うんですけども、この辺を学区に入れてもらったら全然違うと思うんです。単純な話だと思うんですけども。学区を変えるのが難しいというのわかるんですけども、来年から全員転校してくださいといったら難しいと思うんですけども、3年後、5年後を見据えて、1年生になる子をちょっとずつこっちに1年間に1人、2人、3人、4人増えていだけで全然違うと思うんですけども。やっぱりそれでちょっとずつ谷田部南小の良さというのを伝えていってもいいんじゃないかなと思います。希望としては、近隣の小学校でも同じような説明会をして、親御さんたちにこの現状お伝えしていただけたら嬉しいです。	
16	ご意見	複式学級になるけど複式学級じゃないみたいな説明で困惑しています。小規模特認校の話も出てきていたので、えて思ひながら、小規模特認校を進めてから、それで人が集まらなかったら複式学級でもいいんじゃないかなっていうふう思うんですけど、国の決まりだからっていうことでは国の決まりでそうなるけど、ほんとはそうじゃないんだよというややこしいことになっていると思うので、是非つくば市の方でも枠を取っ払ってここは小規模特認校にするから複式学級ではない、単学級で進めていくっていう方向を示して欲しいかなってというのが希望としてあります。	
17-1	ご質問	谷田部南小学校の児童数・学級数推計というグラフを見ているんですけども、来年は2年生と3年生で複式学級みたいなんですけれども、今まで1・2年生で体育一緒にとかでやっていたと思うんですけども、そうすると来年は2・3年生で体育をやって、1年生だけ単独で体育をやるということでしょうか。単純に人数で線引きされていて、具体的なところまで検討していないように見受けられるので、さっきからの説明もそうなんですけども、決まっているからとかで線引きをされると実際にご指導される先生方とか、子どもたちに混乱があるのかなと。体育とかはどういうふうにやられるんですかね。	学校さんの実情にも寄りますが、この人数というのは今、原則論をお話させていただいたところです。体育で言いますと、複式でなくても、単学級でも1・2年生合同体育ですとか、大きな人数でやった方が体育の効果が上がり、子どもたちのためになるだろうということであれば合同で行うこともあります。なので、複式学級と教科の進め方は混同されなくても大丈夫かなと思います。ただ、複式になった場合、もしかすると、これは学校さんの子どもさんたちとの教育効果の判断になると思うんですが、1・2・3年生で合同体育という場合も考えられます。
17-2	ご質問	それは学校判断に任せるということですか。	通常学校さんは、子どもたちの実情を見取りながら授業を計画しています。体育でも年間計画というのがございまして、扱う単元というのがご承知のとおりあるわけですね。そうすると個別にやった方が良いものとゲームのような集団で学んだ方が良いものとかあると思うんですね。単元によっても子どもたちへの教育効果を狙った組合せというのが出てくると思うんですね。今ここで、こういうやり方で全部やり出すということはなかなか申し上げにくいんですが、そこは学校さんの判断も入ってくると思います。
17-3	ご質問	この推計を見ていくと、2年生の場合、来年は3年生とくつつく、再来年は下の学年の方とくつつくみたいな感じになりまして、非常に混乱しそうな気がするんですが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。	これは体育ではない様々な要素が入ってくると思うんですが、先程お話があったように、異学年で学ぶ場合に、それぞれの教科の特性に応じて上の子にも効果があるような内容だったり、下の子も上の子に教わって効果があるようなことがあったりするんですね。そういった交流をしながら学ぶということが大前提に置いています。これは谷田部南小だけでなく本市全体としても交流を推進していて、本市が小中一貫教育等に力を入れているのもそういう前提がございます。他校間での交流も含めて、異学年での交流というのも谷田部南小だけでなく推進しているところでありますので、よりその交流を谷田部南小学校は、小規模だからこそ更に深めたいなという思いはあります。明確な答えになっていなくて申し訳ないんですが、考え方としてはそのような形になります。 複式学級はなかなかわかりにくくて申し訳ないんですが、正式なクラスの登録としては、2年生・3年生が1つの学級で1クラスですよ、という国への申請と申しますか、県への申請と申しますか、それはやらなきゃいけないんです、人数が足りないんですから。ただ、私たちとしては、運営としてそういう複式学級を前提としてはやりませんということ、はっきり言うところまで言える。例えば、体育は必ず2・3年生一緒にやるのかというと、そうとは限らないです。1・2年生でやることも時間割の組み方でこれはできますので、そういうことが上手くできるように私たちは複式学級のなかで、できる範囲で子どもたちのためにうまく進められるようにやり出すということです。体育も必ず2・3年生じゃなくて1・2年生、3・4年生ということもありますし、たぶんそうなると思います。その方が学習内容がセットしやすいのでそうなるんじゃないかなと思っていますし、そうなることを前提にまだ学校とはやっていませんので、来年については、これから相談をして、どう組み合わせで時間割を作っていくかっていうのはこれから具体的にやります。そのように子どもたちのためには、動きがしやすいような組み立てをしていきますので、そこはご心配なさらずに、大丈夫だと思っていただければと思います。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
17-4	ご質問	そうすると学校の先生方のご負担っていうのが結構増えそうなイメージではあるんですけど、今の段階でもまだ学校側ともお話をされていないということなんですかね。	具体的に時間割まではやっていないということです。ただ、少人数を生かす教育と、来年から複式になることによってどうするかっていうのを準備しましょうということで、今、やっている段階です。まだ半年近くありますので、実際には時間割はこれから考えるということになります。ただ、それは学校だけにお任せするのではなくて、一緒に考えていきますし、この2・3年生をいつもセットで考えるかというところではなくて、2・3年生バラバラに考えていくということが基本になるくらいの時間割の組み立てになると思います。とにかく複式というのはわかりにくいんです。その点をこれから学校と相談して、もっとわかりやすいような説明ができるようにしていきたいと思います。だいぶそこが皆さんのご理解があまり進まないところだと思imasuので、複式学級を例えばこんなふうに運営しますということは、説明できるようにしたいと思imasu。
17-5	ご質問	そうするともう一度くらい、今回その学区のお話とかもあったと思うんですけど、他の学区への説明会とか、それに対してどういうふうに検討していただいたかの説明会というの、もう一度開いていただけるということでしょうか。	谷田部南小学校の保護者の方がどのようなお考えをお持ちでいらっしゃるのか、今意見をいただきましたけれども、それ以外の意見の方もいらっしゃるでしょうから、そういうことをしっかり調査した上で、それについての今後の進め方というのは、検討しなければならないと、そしてそれを皆さんに説明する機会というのが必要であると考えていますので、これ1回ということではなくてですね、やらなければならないかなというふうに考えています。その節には、皆さんからも忌憚のないご意見を頂戴しますし、色々こう先を見た相談というのは、これからさせていただければありがたいと思っております。決して私たちはこうしなさいと、一方的なことをしようとは思っていないための説明会です。そのところはご理解いただければと思います。どうしても今日の説明会でわかんないよ、不満だよというところは出てきていると思うんですけど、そのことについて、私たちも進めて行ければと思いますので、どうぞ協力をお願いしたいと思います。